



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和3年度 第8号
令和3年 12月1日

こんなに寒いのに「われは海の子」？

校長 水野裕司

日に日に朝晩の冷え込みが厳しくなり、最低気温が零度を下回る日も出て来る季節となりました。多摩市の感染レベルが1となり、感染症対策を十分に行いながらではありますが、校舎には子供たちの歌声が響いています。先日、事務室に書類を届けに行ったときの会話です。

「今、われは海の子が聞こえてきましたが、どうして夏の歌を歌っているんですか。」

「あの歌は、学習指導要領で扱うように指定されているから、コロナのために季節外れになってしまったけど、指導しなければいけない歌なんですよ。」

「へえ～！先生たちもいろいろな苦労があるんですね。初めて知りました。私たちは、歌詞の中に何か意味があるから、この寒い中歌っているのかと思って話していたんですよ（笑い）。」

事務室にいても子供たちの授業の様子に気を配りながら仕事してくれているんだなど、とてもうれしく思いました。さて、学校で歌唱指導する曲について、小学校学習指導要領の第6節音楽「第5学年及び第6学年」のページには、次のように示されています。

3 内容の取扱い

(1) 歌唱教材には、次に示すものを取り扱う。

ア 主となる歌唱教材については、各学年ともにイの共通教材の中の3曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う曲

イ 共通教材

[第5学年]

省略 (4曲記載されています。)

[第6学年]

「越天楽今様」(歌詞は第2節まで) (日本古謡) 慈鎮和尚作歌

「おぼろ月夜」 (文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲

「ふるさと」 (文部省唱歌) 高野辰之作詞 岡野貞一作曲

「われは海の子」(歌詞は第3節まで) (文部省唱歌)

(歌詞は、第3節まで) のように、細かく規定されています。

コロナ禍であっても、「学びを止めない」とよく言われます。学校は、授業や行事などの教育活動を、この学習指導要領にのっとり計画を立て、実施しています。夏休みの延長と9月の午前授業で指導時間が少なくなったり、感染予防のために学習活動が制約されたりといった中ではありますが、学習指導要領に示されている内容を確実に実施し、子供たちに確かな学力をつけ、次の学年に送り出すことが大切だと考えています。

また、「学びを止めない」の「学び」は勉強だけではありません。行事等の活動での経験も大切な学びです。先月は、縄跳び月間として全校児童で縄跳びに取り組みました。一人一人が自分の目標を決めて練習し、達成する喜びを感じてほしいと考えて設定しました。今年は、体育委員会がハッピースポーツタイムと称して、休み時間に縄跳びの技のこつを教えたり、跳んだ回数を数えたりしてくれました。その中で、「縄跳びでこんなに嬉しいと思ったことはありませんでした。」「二重跳びを5回跳べたことは、私にとって奇跡でした。」等、うれしい感想をもった児童がたくさんいました。校歌には「生きる幸せ 学ぼうよ」とあります。目標に挑戦する楽しさや達成する喜びを感じる経験は、生きる幸せを学ぶことだと実感できる取組みとなりました。

勉強も行事などの活動も大切にしながら、「生きる幸せ」を学べる場を創り出すよう努めてまいります。世界では、新しい変異ウィルスの発生が報告されています。感染再拡大の防止が、学びを止めないことにつながります。引き続き、健康観察、マスクの着用、人との距離を取るなどの基本的な感染症対策へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。